

## 今週のメニュー

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2014 発表&amp;表彰式

－ “I want this!” な作品が選ばれました－

PVC Design Award 事務局

## ■随想

◇フィレンツェ便り（その2）－ルッカのろうそく祭り－

関東学院大学 織 朱實

## ■編集後記

## ■トピックス

◇PVC Design Award 2014 発表&amp;表彰式

－ “I want this!” な作品が選ばれました－

PVC Design Award 事務局

10月27日に東京一ツ橋の如水会館で、「PVC Design Award 2014」の表彰式と記念パーティーが、後援頂いた経済産業省の谷審議官と日本インダストリアルデザイナー協会（JIDA）の山口事務局長をお迎えし、約120名の関係者の参加を得て開催されました。

今年5月1日にキックオフしたこの「PVC Design Award 2014」には、全国からデザイン提案268件、製品応募81件、合計349件が寄せられ、大竹審査委員長をはじめ審査員の皆様の厳正中立な審査で、一次審査、最終審査を経て、準大賞、優秀賞、入賞が決まりました。

[\(受賞作品一覧\)](#)



宇田川実行委員長  
(VEC 会長) 挨拶



準大賞受賞者  
(左：時田氏/右：梶本氏)

今回は残念ながら大賞がなく、準大賞1点となりましたが、優秀賞が6点選ばれました。準大賞に選ばれた作品は、デザイナーの梶本博司氏とナショナルマリンプラスチック社の時田宗弘氏の「0 tape」<sup>ゼロ テープ</sup>で、「あるけどない」をモチーフに透明度が高くテープ自体の存在をなくすことに徹したテープで、糊を使用せずPVCの粘着性を利用しているため対象物を痛めることなく、且つ再使用可能という環境面にも配慮したこれまでにない作品です。だれもが使ってみたくなる正に“I want this!”な作品であるところが高く評価されました。

優秀賞は、今年は6件と多く選ばれました。受賞作品は、デザイン応募から豊崎雄二郎氏他の「窓辺に花を・・・」、徳田周太氏の「泡風呂敷」、相澤航祐氏の「漢字パズル」、石井聖己氏の「TETRA」、製品応募から大畑五月氏の「Fondue Slipper」<sup>フォンデュ スリッパ</sup>、奈須田友也氏の

「Chain sheet」です。今回は、デザイン提案から優秀賞に4点が選出されることとなり、昨年からはじめたデザイナー向けの説明会、また試作にあたりデザイナーと製作者との共同作業がより親密に、高度になっているものと嬉しく感じております。さらに、入賞作品は14点が選ばれ、いずれも表彰式の会場で展示、紹介されました。いずれもユニークなこれまでにない発想で、回を重ねるたびにPVCの認知度が高まっていると思われま

す。経済産業省の谷審議官からは、アワードはものづくりとデザインを融合させるというチャレンジングで魅力的な、これまでにない取り組みであり、業界全体を盛り上げているとの評価を頂きました。また、古来からデザインすることにより単なる物から生きている物に変わり、文化・文明が活性化されてきたとも述べられ、ものづくりとデザインの融合の大切さを述べられました。

JIDAの山口事務局長からは、JIDAの提案もありアワードの開催となったが今回で4度も開催できていることはすばらしいことであり、若いデザイナーの発奮材料ともなっているとの評価を頂きました。また、回を重ねていると必ずびっくりするような作品が出てくるものであり、今後とも継続して続けて行くべきとの激励の言葉を頂きました。



経済産業省  
谷審議官

その後、表彰式に移り、受賞作品の発表と宇田川実行委員長（塩ビ工業・環境協会会長）から受賞者に表彰状とトロフィーが手渡され、出席者の盛んな拍手で祝福されました。また、デザイン提案の試作や多数の製品応募を頂いた方々には感謝状が贈呈されました。

表彰に続いて、大竹審査委員長から、PVC Design Award 2014の応募と選考に当たったの講評が行われ、4回目を迎えた今回の応募作品は、テーマ“ I want this ! ”にふさわしい多彩な作品が集まり、しかも甲乙付けがたい水準の高い作品が多く、いずれもソフトPVCの世界を広げる新しい試みや用途、美しい表現がされていたと述べられました。



JIDA  
山口事務局長



受賞者の皆様

最後に、日本ビニル工業会の清水会長から閉会の挨拶があり、受賞された方々を中心に、関係者一同の記念撮影が行われ、多くのメディア関係の方々も参加され、無事に表彰式が執り行われました。

引き続き、受賞者を主賓に記念パーティーが行われ、会場内では入賞された作品を前に受賞者とメディアや参加者と作品の狙いや苦心談などを交えた話におおいに盛り上がりました。受賞者の

方々からは、次もチャレンジしたいというお声をいただき、こうした取り組みが継続し、さらに発展していくことを関係者一同願っています。

尚、この受賞作品と惜しくも入選を逃したデザイン提案・作品について、応募者の了解を得て、東京、名古屋、大阪、福岡の各会場で[展示会](#)を行います。また、エコプロダクツ2014（12/11-13、東京ビッグサイト）でもVEC・JPECのブースで展示されます。是非、見に来て頂きたいと思ひます。

## ■ 随想

### ◇フィレンツェ便り（その2）ールッカのろうそく祭りー

関東学院大学 織 朱實

9月にフィレンツェから電車で約1時間、人口約9万人の小さな古い街ルッカに行ってきました。ルッカは、17世紀に築かれた城壁（一部の城壁は、紀元前2世紀の古代ローマ時代まで遡るそうです）に囲まれた街として有名です。古い城壁が残っている街は、イタリアには沢山ありますが、ルッカの様に完全に旧市街が城壁で囲われた状態で残っているのは珍しいそうです（リアル「進撃の巨人」の世界ですね）。この城壁の中の旧市街は、中世の世界そのままの細い道が入り組んだ雰囲気のある街並みです。

この旧市街が、9月13日のサンタ・クローチェ祭り（Luminaria di S. Croce）の夜には、ろうそくの灯りの中とても幻想的な雰囲気になります。その雰囲気を味わうためにイタリア国内から沢山の観光客が、この日にルッカを訪れます。イタリアでは各街にゆかりのある守護聖人がいて、年に一度その守護聖人の日が街の祭日となりますが、ルッカの守護聖人はサンタ・クローチェ（Santa Croce）。サンタ・クローチェの祭日9月14日の前夜にろうそく祭り（ルミナーラ）が行われるのです。



日が暮れると街中の電灯が消され、大聖堂や教会、市庁舎、商店街のお店の壁に並べられたろうそくが輝きます。ろうそくは、アーチ型の窓の形に合わせていたり、星をかたどっていたりして色々工夫が凝らされています。高い所は、なんとクレーン車で一個一個配置していき、そして一つ一つ人の手で灯りを灯していくのです。大変な数のろうそくが、一本一本灯されていく様子はまさにルミナリエという感じで、厳粛なお祭りという感じがします。



ろうそくの灯りなので、雨が降っても風が強くても消えてしまいます。この灯りの中、夜8時過ぎから信者たちの「ろうそく行列」がサン・フレディアーノ教会から大聖堂を目指して行進していきます。花で飾られたキリスト像を先頭にして、鼓笛隊の演奏に合わせて信者たちが聖歌を歌いながら、ゆっくりゆっくり街を練り歩いていきますが、日本でルミナリエという華やかで、観光的なイメージが強いのですが、ルッカの灯りは本当に小さく、か細く、信者さんたちの歌う聖歌も素朴で、まさに地元の宗教行事なのだということを実感します（せっかくの行列やキリスト像なのだから、もっと見えるようにすればいいのに、とか観光客は思わず思ってしまうのですが）。



この行列は、各町内会ごとの代表者、婦人会、看護師会、警察グループ、議員グループと延々と4時間ほど続きます。ので、訪問者にとってのメインイベントは、行列見学というよりも、ろうそくの幻想的な雰囲気の中、街歩きを楽しむという感じでしょうか。



ところで、前回のアレッソの「[馬上槍突き競技](#)」の記事でも書いたのですが、イタリアで生活をしていて強く感じるのとはにかく「郷土愛」（オラが村が一番だ！）が強いこと。これらはカンパニリズム（Campanilismo）といわれていますが、ナポリ人なら『ピザはナポリ以外ないでしょう〜』的な感じですね。イタリア人と話していると、「外国人が作ったイタリア料理なんて、イタリア料理ではない」「チェーン店のコーヒーなんて！」という感じですね。

今回のルッカでもこれを強く感じる事ができました。というのも、ルッカの街に入った時から、なぜか急に『中華料理』が食べなくなったのです。海外出張が多いので、こういうことは滅多にないのですが、ところが中華料理店を検索しても全く出てこない、「なぜ？」と思ったらなんとルッカの旧市街ではエスニック料理店の出店を禁じる条例が制定されたそうです。中華料理、ケバブ、和食その他外国料理店はすべてダメで、イタリア料理店でもルッカの郷土料理をメニューに載せていないといけないそうです（条例制定前のエスニック料理店はOK）。

理由は、スローフードを推進し、郷土に根付いた料理を、ということらしいのですが、背景には増加する移民と廉価なケバブ店の増加があるのでしょうか。制定にあたっては『食による人種差別だ』『いや、郷土料理を推進するのは当然だ』とかなりの議論があったそうです。

スローフードも、郷土料理推奨も反対するものではないのですが、本来食事は様々なメニューの中から選んでいく楽しみもあるはず。その選択肢が、一方的に狭められることには抵抗を感じます。コミュニティ力、地域力が日本でもクローズアップされていますが、グローバル化、国際化のなかで異文化とコミュニティ文化の保持、どこでバランスを取っていくのか、ルッカで考えさせられました。

⇒ [メルマガ・バックナンバー](#)

## ■ 編集後記

デザインアワードも表彰式が終わりました。

今回のアワードはデザイン提案では専門学校の学生の方々、企業の中でデザインを担当していらっしゃるの方々、製品応募ではデザイナーと作り手が共同して応募するなど、前回とは違う特色を感じました。

今日から[六本木の AXIS](#) で展示をしていますのでお越し下さい。(リマル)

## ■ 関連リンク

- [メルマガジンバックナンバー](#)
- [メルマガジン登録](#)
- [メルマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)